

平成 18年3月期 中間決算短信(連結)

上場会社名 大東港運株式会社コード番号 9367

(URL http://www.daito-koun.co.

役職名 代表取締役社長 代 表 者 役職名 代表取締役社長 問合せ先責任者 役職名 取締役管理部長 決算取締役会開催日 平成 17 年 11 月 29 日

米国会計基準採用の有無

平成 17 年 11 月 29 日 上場取引所 TQ 本社所在都道府県 東京都

TEL(03)5476-9701

17年9月中間期の連結業績(平成17年4月1日~平成17年9月30日)

(1) 連結経営成績 (百万円未満切捨表示)

中 41.

氏名 氏名 好英

	売 上 高	営業利益	経常利益	
17年9月中間期 16年9月中間期	百万円 % 7,343 (7.0) 6,864 (1.9)	百万円 % 398 (19.2) 334 (33.4)	百万円 % 365 (35.5) 269 (42.8)	
17年3月期	13, 814	706	599	

	中間(当期)純利益	1 株当たり中間 (当期)純利益	潜在株式調整後1株当 たり中間(当期)純利益
	百万円 %	円 銭	円 銭
17年9月中間期	$272 \ (\triangle 37.1)$	29 02	_
16年9月中間期	432 (485. 0)	46 10	_
17年3月期	642	67 99	_

- (注)①持分法投資損益 17年9月中間期 △0百万円 16年9月中間期 △1百万円 17年3月期 △0百万円
 - ②期中平均株式数(連結) 17年9月中間期 9,388,600株 16年9月中間期 9,388,600株 17年3月期 9,388,600株
 - ③会計処理の方法の変更
 - ④売上高、営業利益、経常利益、中間(当期)純利益におけるパーセント表示は、対前年中間期増減率

(2) 連結財政状態

(ロ) 大工が日かりゃくかくかい				
	総 資 産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年9月中間期	8, 239	1,770	21. 5	188 61
16年9月中間期	8, 470	1, 358	16.0	144 71
17年3月期	8, 158	1, 586	19. 4	168 53

(注)期末発行済株式数(連結) 17年9月中間期 9,388,600株 16年9月中間期 9,388,600株 17年3月期 9,388,600株

(3)連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年9月中間期	165	6	$\triangle 398$	1, 227
16年9月中間期	$\triangle 32$	1, 301	$\triangle 349$	1,624
17年3月期	374	1, 290	△918	1, 448

(4)連結範囲及び持分法の適用に関する事項

持分法適用関連会社数 一社 連結子会社数 5 社 持分法適用非連結子会社数 1 社

(5)連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結 (新規) - 社 (除外) - 社 持分法 (新規) - 社 (除外) - 社

2.18年3月期の連結業績予想(平成17年4月1日~平成18年3月31日)

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通期	14, 000	640	420

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期)

44 円 58 銭

※ 上記の予想は本資料の発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づくものであり、実際の業績は異なる結果と なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料の11ページを参照してください。

1.企業集団の状況

(1)主な事業の内容

当企業集団は、大東港運株式会社(当社)、子会社7社で構成されており、事業は主に港湾運送事業、陸上運送事業、倉庫業、通関業およびその他事業を行っております。 事業内容と事業の種類別セグメントにおける区分は同一であり、当社および関係会社の当該事業に

おける位置付けは、次のとおりであります。

	事 業 区 分	会 社 名
洪	港湾運送事業	大東港運株式会社
港湾運送事業お	陸上運送事業	大東港運株式会社、大東運輸倉庫株式会社
歩		株式会社大東物流機工、東京運輸倉庫株式会社
	倉 庫 業	大東港運株式会社、大東運輸倉庫株式会社
よ び 付		大東港運(江陰)儲運有限公司、株式会社ダイトウサービス
帯事業	通 関 業	大東港運株式会社
業		ジェネラルインターナショナルフレイトフォワーダーズインコーポレイテッド
	海運代理店業	大東港運株式会社
その		ジェネラルインターナショナルフレイトフォワーダーズインコーポレイテッド
	構内作業	大東港運株式会社
他事業	損害保険代理業	大東港運株式会社、有限会社ダイトウ保険センター
	そ の 他	大東港運株式会社、株式会社ダイトウサービス

(2)事業系統図

事業系統図を示すと次のとおりであります。

得 意 先 提出会社 大東港運株式会社 港湾運送事業および港湾付帯事業 その他事業 港湾運送事業 海運代理店業 陸上運送事業 構内作業 倉庫業 損害保険代理業 通関業 その他 連結子会社 大東運輸倉庫株式会社 (陸上運送事業、倉庫業) 株式会社大東物流機工 (陸上運送事業) ジェネラルインターナショナルフレイト フォワーダーズインコーポレイテッド (通関業、海運代理店業) 大東港運(江陰)儲運有限公司 (倉庫業) 株式会社ダイトウサービス (倉庫荷役、荷役機械・器具リース業) 持分法適用子会社 東京運輸倉庫株式会社 (陸上運送事業) 非連結子会社 有限会社ダイトウ保険センター (損害保険代理業)

2. 経営方針

(1)経営の基本方針

当社の主要事業であります港湾運送事業は、原材料や各種製品および農畜水産物などの供給を支え、わが国経済の発展や国民生活にとって必要不可欠の存在となっており、その役割の重要性はますます高まっております。当社はこの役割を果たし、お客様のニーズに応えられる、特色ある物流会社として社会に貢献し、成長していくことを目指します。

(2)利益配分に関する基本方針

当社は、株主ならびに一般投資家保護の基本原則に従いまして、利益還元を積極的に行う方針であります。平成17年9月に公表しました新中期経営計画において、平成19年3月期までに繰越損失の解消を果たす予定でありましたが、取扱貨物の量的拡大や販路の拡張に努力した結果、1年前倒しの平成18年3月期に達成できる見込みであります。

当社といたしましてはさらに財務体質の改善・経営基盤の強化を図り、早期復配を目指す所存でございます。

(3)投資単位の引下げに関する考え方及び方針等

当社は、投資家の株式市場への参加を促進し、株式流動性の向上を図るための投資単位の引下げを重要課題として認識しております。しかしながら、現時点での投資単位の引下げにつきましては、「上場有価証券の発行者による会社情報の適時開示等に関する規則」(平成17年4月1日現在)第2条第1項の50万円を下回る水準ですので、特段の措置を講じる必要は無いものと判断しております。

(4) 中長期的な経営戦略

当社が得意とする食品の輸入取扱いにつきましては、肉、魚、野菜といった単一の食材だけではなく、加工・調理済の食品が多く占めるようになり、そのため通関等の諸手続が複雑化しております。また、消費者ニーズの多様化や法改正から原産地の表示や食品添加物等に関する高度な知識・ノウハウが諸手続・サービスの中に要求されてきております。

当社はこの分野で高く評価されてきておりますが、さらにこの強みを生かすべく、経営課題の最重要 事項として専門家集団の育成、強化、組織化に取り組んでおります。また、施策実施を推進すべく 新中期経営計画の重要項目として織り込み、収益力の確保に努めて参ります。

[新中期経営計画施策の骨子]

- ・営業体制の強化
- 人事制度の見直し
- ・システムの高度化
- 不振事業の再構築

(5)会社の対処すべき課題

当社は、港湾運送事業を中心とする物流会社として、陸上運送、倉庫、通関などの各事業分野が、 常に時代の要請に応えられ効率的に機能するよう、大胆な見直し、組替えを継続的に行なって参ります。 その為には従業員の理解と協力が不可欠であり、人事の活性化、能力開発、コミュニケーションの活発 化にも積極的に取り組んで参ります。

また、当社が得意とする食品の輸入取扱いにおきましては、農林水産省の動物検疫及び植物検疫、 厚生労働省の食品検査が義務付けられていること、市況変動の関連から迅速・確実な通関手続きが要請 されることなどから、少数の専門業者の領域となっております。専門業者としての期待に応えられるよ う能力の向上に積極的に取り組んで参ります。

(6) コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方およびその施策の実施状況

(コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方)

当社はコーポレートガバナンスの重要性を認識し、経営の透明性とチェック機能の充実に取り組み、 経営の健全性向上を図っております。

(コーポレートガバナンスに関する施策の実施状況)

- 1. 会社の機関の内容および内部統制システムの整備の状況
 - ①会社の機関の基本説明
 - ・当社は監査役制度を採用しております。
 - ・社外取締役は取締役8名のうち1名、社外監査役は監査役3名のうち2名を選任しております。

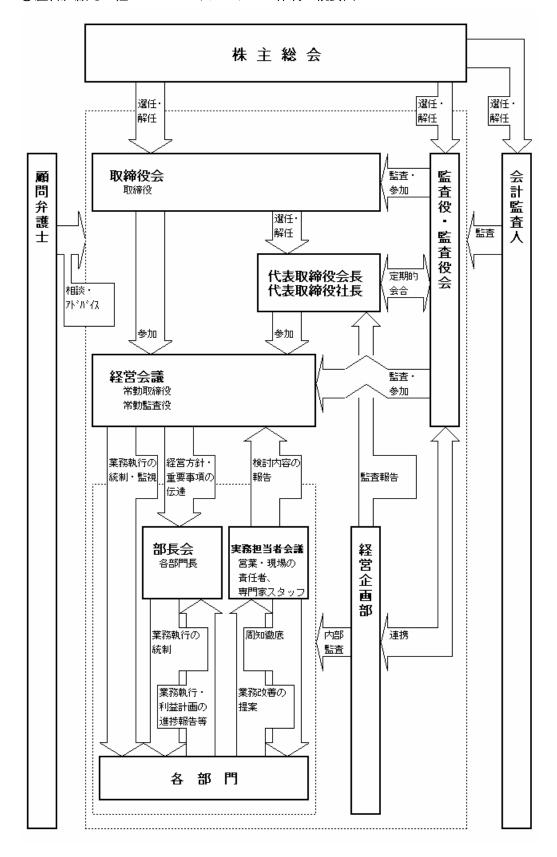
②機関の内容、内部統制の整備状況およびリスク管理体制の整備の状況

- ・取締役会は、取締役8名で構成し、経営の基本方針・意思、法令で定められた事項や経営に関する 重要事項を決定するとともに、取締役の職務の執行を監督する機関と位置付け、定期的に開催して おります。
- ・経営会議は、常勤取締役と常勤監査役で構成し、毎月2回以上開催し、迅速な意思決定、情報の 共有化、業務執行状況の把握ができる監視体制を執っております。
- ・部長会は、各部門長で構成し、毎月1回開催し、重要事項の伝達および各部門の業務執行ならびに 利益計画の進捗状況等が報告されます。
- ・実務担当者会議は、各部門の営業・現場責任者および専門家スタッフで構成し、毎月1回開催し、 業務の効率化と改善を推進しております。
- ・リスク管理体制といたしまして、経営会議・部長会・実務担当者会議および各部門においてそれ ぞれリスクの評価や対策、社内ルールの周知徹底等を行っております。

③内部監査および監査役監査、会計監査の状況

- ・内部監査については、平成17年5月、経営企画部に内部監査課を設置し、監査体制の強化を図りました。
- ・監査役監査は常勤監査役1名と非常勤監査役2名で実施しております。各監査役は監査役会が 定めた監査の方針・業務の分担等に従い、取締役会および経営会議への出席、業務の内容および 財産の状況の調査を通じ、取締役の職務遂行の監査を行っております。なお、代表取締役との信頼 関係向上のため、定期的に会合を開催しております。
- ・会計監査人は第三者としての立場から財務諸表監査を実施し、当社は監査結果の報告を受け、 意見交換、改善などの提言を受けております。

④経営組織その他コーポレートガバナンス体制の概要図



⑤業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人
北本 幸仁	中央青山監査法人
福田 日武	中央青山監査法人

(注) 監査業務に係る補助者の構成は、監査法人の選定基準に基づき決定されております。

具体的には、公認会計士および会計士補を主たる構成員とし、その他の補助者 (システム専門家)も加えて構成されております。

なお、監査継続年数は全員7年以内のため記載を省略しております。

- 2. 会社と会社の社外取締役および社外監査役の人的関係、資本的関係または取引関係その他の利害関係の概要
 - ・社外取締役の別府克巳氏が専務取締役を兼務しております神鋼物流株式会社と当社との間には、 運送料、構内作業料等の収入および事務所賃借料の支払について取引があります。
- 3. コーポレートガバナンスの充実に向けた取組みの最近1年間における実施状況
 - ・代表取締役と監査役との会合、取締役会・経営会議・部長会を定期的または適宜に開催し、コーポレートガバナンスのより一層の充実を図っております。
 - ・実務担当者会議を定期的に開催し、業務改善・効率化の成果を上げております。
 - ・IR活動の一環として、新中期経営計画、四半期毎の決算説明資料を当社ホームページ (http:/www.daito-koun.co.jp/) に掲載しております。
 - ・平成17年5月、経営企画部に内部監査課を設置いたしました。

(7)内部管理体制の整備・運用状況

- 1. 内部牽制組織、組織上の業務部門および管理部門の配置状況、社内規定の整備状況その他内部管理 体制の整備の状況
 - ①当社における内部牽制組織の状況は(6)1.③「内部監査および監査役監査、会計監査の状況」の とおりであります。
 - ②管理部門の配置状況につきましては、経営企画部を社長の直轄にして予算統制・内部監査等を行い、管理部において事務統制・適時開示等を行っております。
 - ③社内規定につきましては、すでに必要規定を整備しておりますが、関係法令の改正・内部統制機能 の整備等に対応し、随時関係規定の整備を実施しております。

(8) その他会社の経営上の重要な事項

(リスク情報)

当企業集団の事業上のリスクと考えられる主な事項を以下において記載しております。また、必ずしも事業上のリスクに該当しないものについても、投資判断上重要と考えられる事項については、積極的に開示しております。ただし、当企業集団の事業リスクを必ずしも全て網羅するものではないことをご留意下さい。

1. 輸入停止措置によるリスク

当企業集団が主力とする食品の輸入貨物については、食品の安全性を確保する見地から輸入停止措置がとられることがあり、それが業績に影響を及ぼす可能性があります。

2. 貸倒引当金についてのリスク

当企業集団は一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に 回収可能性を勘案し貸倒引当金を計上しておりますが、取引先企業の倒産・担保価値の下落・その他 予期せざる理由により計上時点の貸倒引当金が不十分となり、増額せざるを得なくなる可能性があり ます。

3. 訴訟について

平成 11 年 5 月 25 日、エンゲルハード・メタルズ・ジャパン株式会社より当社に対し、ニッケル 地金の保管について寄託契約の債務不履行に基づく損害賠償請求が東京地方裁判所に提訴されま した。

平成 16 年 7 月 13 日、東京地方裁判所は、原告に 2,118,732 米ドルおよび平成 10 年 1 月 30 日から 支払い済みまで年 5 分の割合による金員を支払え、という旨の判決を下しました。

当社は平成 16 年 7 月 15 日、上記判決を不服として東京高等裁判所に控訴し、現在係争中であります。

また、当中間期において上記訴訟の経過等の状況に基づいて合理的に見積もった訴訟損失引当金を計上しております。

3. 経営成績および財政状態

(1)経営成績

①当期の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、世界経済の着実な景気回復・企業収益の好調さが続く中で、設備投資・個人消費の増加も見られました。また、雇用情勢は厳しさが残るものの、改善に広がりが見られるなど、景気は緩やかに回復いたしました。

物流業界におきましては、原油価格の高騰により終始一貫して厳しい状況で推移し、輸出貨物の荷動きが減少いたしました。その中で食品の輸入量については、畜産物は牛肉・鶏肉が堅調に回復し、農産品はポテト等が増加しました。水産物は横ばいであり、総じて堅調に推移いたしました。

このような状況の中で、当企業集団は取扱貨物の量的拡大や販路の拡張に努力したため、畜産物・ 農産品のみならず、水産物においても前年同期を上回る取扱量を確保することができました。

この結果、当中間連結会計期間の連結売上高は前年同期に比較し4億78百万円増(7.0%増)の73億43百万円となりました。一方、外注原価・諸経費などのコスト管理に努めたため、連結経常利益は前年同期に比較し95百万円増(35.5%増)の3億65百万円となり、連結中間純利益は訴訟損失引当金繰入額1億25百万円、法人税、住民税及び事業税1億57百万円、法人税等調整額2億35百万円を計上した結果、前年同期に比較し1億60百万円減(37.1%減)の2億72百万円となりました。

②セグメント別の概況

(港湾運送事業および港湾付帯事業)

港湾運送事業は、船内荷役料収入は減少しましたが、輸入貨物の取扱量が増加したため、売上高は34億75百万円となり、前年同期に比較し9.7%の増収となりました。

陸上運送事業は、国内鋼材貨物のトラック運送料収入は減少しましたが、輸入貨物のコンテナ運送料収入が増加したため、売上高は12億37百万円となり、前年同期に比較し6.3%の増収となりました。

倉庫業は、保管料収入が増加したため、売上高は15億11百万円となり、前年同期に比較し3.7%の増収となりました。

通関業は、輸入申告料収入が増加したため、売上高は8億92百万円となり、前年同期に比較し8.8%の増収となりました。

この結果、港湾運送事業および港湾付帯事業全般の売上高は71億17百万円と前年同期に比較し7.7%の増収となり、営業利益は6億55百万円と前期に比較し35百万円増(5.8%増)の増益となりました。

(その他事業)

その他事業は、船舶代理店収入が減少したため、売上高は2億25百万円と前年同期に比較し 11.1%の減収となり、営業利益は33百万円と前期に比較し8百万円減(19.5%減)の減益 となりました。

③通期の見通し

当下半期の景気見通しにつきましては、原油価格の動向が懸念されますが、世界経済の回復・拡大や 企業収益の回復が持続し、個人消費も回復していくものと予想されます。

食品の輸入環境におきましては、個人消費の回復に支えられ、畜産物・水産物・農産品の輸入量はいずれも堅調に推移していくものと思われます。

当企業集団といたしましては、平成17年9月策定の新中期経営計画に基づき、営業戦力を強化し、 さらに収益力の向上を図り、早期復配を目指す所存であります。

通期の連結売上高は140億円、連結経常利益は6億40百万円、連結当期利益は4億20百万円を 予想しております。

(2) 財政状態(当期のキャッシュ・フローの状況)

当中間連結会計期間における現金および現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動により1億65百万円、投資活動により6百万円とそれぞれ増加しましたが、財務活動により3億98百万円減少したことから、前連結会計年度に比較し2億20百万円(△15.2%)の減少となり、当中間連結会計期間末には12億27百万円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において営業活動による資金の増加は1億65百万円となりました。

これは売上債権の増加額が 2 億 53 百万円、利息の支払額が 45 百万円および法人税等の支払額が 1 億 76 百万円あったものの、税金等調整前中間純利益金額が 1 億 92 百万円となり、非資金項目である減価償却費が 32 百万円および貸倒引当金の増加額が 34 百万円、退職給付引当金の増加額が 17 百万円、訴訟損失引当金の増加額が 1 億 25 百万円、また仕入債務の増加額が 2 億 8 百万円と資金が増加したことから、前中間連結会計期間に比較し 1 億 97 百万円の増加となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動による資金の増加は6百万円となりました。

これは投資有価証券の売却による収入が 10 百万円および貸付金の回収による収入が 13 百万円あったものの、有形固定資産の取得による支出が 7 百万円および貸付による支出が 6 百万円あったことから、前中間連結会計期間に比較し 12 億 94 百万円の減少となりました。ただし、この比較については前中間連結会計期間において有形固定資産および投資有価証券の売却による収入が 12 億 60 百万円あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において財務活動による資金の減少は3億98百万円となりました。

これは短期および長期借入金の約定弁済を行なったことや社債の償還による支出があったことから、前中間連結会計期間に比較し48百万円の減少となりました。

キャッシュ	•	フロー指標	悪のト	レント	;
-------	---	-------	-----	-----	---

	平成15年9月期中	平成16年9月期中	平成17年9月期中	平成16年3月期	平成17年3月期
自己資本比率	10. 2%	16.0%	21.5%	11.4%	19. 4%
時価ベースの 自己資本比率	14.0%	15. 0%	30. 2%	14. 7%	28. 5%
債務償還年数	7.5年	7.3年	3.5年	4.4年	4.4年
インタレスト・ カバレッジ・レ シオ	4.5倍	4.2倍	8.4倍	6.9倍	6.4倍

- 1. 自己資本比率:自己資本/総資産
- 2. 時価ベースの自己資本比率:株式時価総額/総資産
- 3. 債務償還年数:有利子負債/営業キャッシュ・フロー(利息及び法人税等控除前)
- 4. インタレスト・カバレッジ・レシオ:営業キャッシュ・フロー(利息及び法人税等控除前)/利払い ※各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。
 - ※株式時価総額は、中間(期末)株価終値×中間(期末)発行済株式数(自己株式控除後)により計算しております。
 - ※営業キャッシュ・フロー(利息及び法人税等控除前)は、(中間)連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フロー(利息の支払額及び法人税等の支払額控除前)を使用しております。

ただし、前中間連結会計期間および前連結会計年度については数値の比較性および有用性の観点から、控除額 (利息の支払額及び法人税等の支払額)に供託金の支出額を含めて使用しております。

※有利子負債は、(中間)連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、中間における債務償還年数の計算は、営業キャッシュ・フロー(利息及び法人税等控除前)を年額に換算するため2倍にしております。

※利払いについては、(中間)連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

4. 中間連結財務諸表等

<u>(1)中間連結貸借対照表</u>

	当中間連結会割	十期間末	前中間連結会詞	計期間末	前 連 結 会 言 要約連結貸借	
科目	(平成17年9月30	日現在)	(平成16年9月30	日現在)	(平成17年3月31	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
資 産 の 部		%		%		%
I 流 動 資 産						
1. 現 金 及 び 預 金	1, 227, 585		1, 624, 756		1, 448, 189	
2. 受取手形及び営業未収入金	2, 695, 684		2, 574, 019		2, 433, 966	
3. た な 卸 資 産	49, 390		57, 729		27, 286	
4. 繰 延 税 金 資 産	163, 335		211, 349		134, 215	
5. そ の 他	504, 215		536, 091		675, 160	
貸倒引当金	△ 17, 108		△ 16,770		△ 16,713	
流動資産合計	4, 623, 103	56. 1	4, 987, 175	58. 9	4, 702, 105	57.6
Ⅱ 固 定 資 産						
1. 有 形 固 定 資 産						
(1) 建物及び構築物	653, 597		691, 515		667, 217	
(2)機械装置及び運搬具	36, 954		61, 379		58, 412	
(3) 土 地	1, 412, 637		1, 412, 637		1, 412, 637	
(4) そ の 他	20, 231		23, 612		21, 772	
有形固定資産計	2, 123, 421	25. 8	2, 189, 144	25. 8	2, 160, 040	26. 5
2. 無 形 固 定 資 産	261, 889	3. 2	272, 623	3. 2	264, 502	3. 3
3. 投資その他の資産						
(1) 投 資 有 価 証 券	315, 370		220, 192		259, 794	
(2) 破 産 債 権 ・ 更 生 債 権 その他これらに準ずる債権	869, 417		875, 470		873, 178	
(3) 繰延税金資産	208, 990		100, 439		23, 849	
(4) そ の 他	550, 540		559, 273		554, 052	
貸倒引当金	△ 713, 388		△ 734, 414		△ 678, 953	
投資その他の資産合計	1, 230, 929	14. 9	1, 020, 961	12. 1	1, 031, 921	12.6
固定資産合計	3, 616, 240	43. 9	3, 482, 729	41. 1	3, 456, 464	42. 4
Ⅲ 繰 延 資 産	_	_	1, 043	0.0	_	_
資 産 合 計	8, 239, 344	100.0	8, 470, 948	100.0	8, 158, 569	100.0

	当中間連結会割	十期間末	前中間連結会計期間末		前 連 結 会 計 年 度 要約連結貸借対照表	
科目	(平成17年9月30日現在)		(平成16年9月30日現在)		(平成17年3月31日現在)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
負 債 の 部		%		%		%
I 流 動 負 債						
1. 支払手形及び営業未払金	2, 150, 727		2, 019, 955		1, 937, 476	
2. 短 期 借 入 金	1, 259, 010		1, 865, 842		1, 631, 450	
3. 一年以内償還社債	60, 000		60,000		60,000	
4. 賞 与 引 当 金	_		_		175, 097	
5. 訴 訟 損 失 引 当 金	125, 200		_		_	
6. そ の 他	614, 601		716, 254		626, 923	
流動負債合計	4, 209, 538	51. 1	4, 662, 051	55. 0	4, 430, 948	54.3
Ⅱ 固 定 負 債						
1. 社 債	60,000		120, 000		90, 000	
2. 長 期 借 入 金	1, 347, 492		1, 647, 202		1, 343, 142	
3. 再評価に係る繰延税金負債	213, 666		88, 260		88, 260	
4. 退職給付引当金	573, 251		528, 347		555, 396	
5. そ の 他	50, 594		51, 384		48, 253	
固定負債合計	2, 245, 004	27. 2	2, 435, 194	28.8	2, 125, 053	26. 1
負 債 合 計	6, 454, 543	78. 3	7, 097, 246	83. 8	6, 556, 001	80. 4
(少数株主持分)	13, 998	0. 2	15, 085	0. 2	15, 812	0. 2
I 資 本 金	856, 050	10. 4	856, 050	10. 1	856, 050	10. 5
Ⅱ 資 本 剰 余 金	625, 295	7.6	625, 295	7. 4	625, 295	7. 6
Ⅲ 利 益 剰 余 金	196, 449	2. 4	△ 278, 459	△3. 3	△ 68,466	△0.8
IV 土地再評価差額金	3, 885	0. 1	129, 290	1.5	129, 290	1.5
V その他有価証券評価差額金	86, 471	1.0	26, 120	0.3	48, 150	0.6
VI 為替換算調整勘定	2, 929	0.0	598	0.0	△ 3,286	△0.0
VIII自己株式	△ 278	△0.0	△ 278	△0.0	△ 278	△0.0
資 本 合 計	1, 770, 802	21. 5	1, 358, 616	16. 0	1, 586, 754	19. 4
負債、少数株主持分 及 び 資 本 合 計	8, 239, 344	100. 0	8, 470, 948	100. 0	8, 158, 569	100.0

						位:千円)
	当中間連結会	計期間	前中間連結会	計期間	前 連 結 会 記 要約連結損益	
科目	(自 平成17年 至 平成17年		(自 平成16年4 至 平成16年9		(自 平成16年 至 平成17年	
	金額	百分比	金 額	百分比	金額	百分比
		%		%		%
I 営 業 収 益	7, 343, 170	100. 0	6, 864, 798	100.0	13, 814, 936	100.0
Ⅱ 営 業 原 価	5, 547, 224	75. 5	5, 111, 645	74. 5	10, 342, 514	74. 9
営業総利益	1, 795, 945	24. 5	1, 753, 152	25. 5	3, 472, 421	25. 1
Ⅲ 販売費及び一般管理費	1, 397, 251	19. 1	1, 418, 730	20. 7	2, 765, 429	20. 0
営業 利益	398, 694	5. 4	334, 421	4.8	706, 991	5. 1
IV 営業外収益	23, 109	0. 3	20, 575	0.3	32, 496	0. 2
1. 受 取 利 息	1, 174		1, 159		2, 337	
2. 受 取 配 当 金	1,719		3, 380		4, 051	
3. 受 取 保 険 金	1,810		1, 979		2, 540	
4. 受 取 地 代 家 賃	4, 010		4, 052		8, 042	
5. そ の 他	14, 394		10,004		15, 525	
V 営 業 外 費 用	56, 003	0.8	85, 085	1. 2	140, 315	1.0
1. 支 払 利 息	46, 869		60, 205		114, 642	
2. 持分法による投資損失	459		1, 206		872	
3. そ の 他	8, 674		23, 672		24, 800	
経常 利益	365, 800	4. 9	269, 912	3. 9	599, 173	4. 3
VI 特 別 利 益	6, 481	0. 1	337, 278	4. 9	394, 652	2.8
1. 固定資産売却益	_		331, 712		331, 712	
2. 投資事業組合分配金	3, 441				433	
3. 投資有価証券売却益	_		_		1, 210	
4. 貸倒引当金戻入益	_		5, 566		61,084	
5. 退職給付引当金戻入益	3, 040				_	
6. そ の 他	_		_		210	
VII 特別損失	179, 691	2. 4	26, 229	0. 4	35, 651	0. 2
1. 固定資産除売却損	2, 202		7, 584		9, 851	
2. 減 損 損 失	16, 119				_	
3. 貸倒引当金繰入額	34, 469		_		_	
4. ゴルフ会員権売却損	_		17, 000		17, 000	
5. ゴルフ会員権評価損	_		_		8, 800	
6. 訴訟損失引当金繰入額 ※	125, 200		_		_	
7. 入 会 金 評 価 損	1, 700		_		_	
8. その他	_		1, 644		_	
税金等調整前中間(当期)純利益	192, 590	2. 6	580, 961	8. 4	958, 173	6. 9
法人税、住民税及び事業税	157, 323	2. 1	156, 439	2. 2	173, 741	1. 2
法人税等調整額	△ 235, 335	△3. 2	△ 9,692	△0.1	139, 496	1. 0
少数株主利益 又は損失(△)	△ 1,814	△0.0	1, 421	0.0	2, 148	0.0
中間 (当期) 純利益	272, 415	3. 7	432, 792	6. 3	642, 786	4. 7

(3)中間連結剰余金計算書

	当中	中間連結会計期間	前	中間連結会計期間	前	連結会計年度
科目	(皇	平成17年4月 1日)	(阜	平成16年4月 1日)	(皇	平成16年4月 1日)
14T - E	至	平成17年9月30日	至	平成16年9月30日	至	平成17年3月31日
	金	額	金	額	金	額
(資本剰余金の部)						
I 資本剰余金期首残高						
1. 資本準備金期首残高		625, 295		625, 295		625, 295
Ⅱ 資本剰余金中間期末(期末)残高		625, 295		625, 295		625, 295
(利益剰余金の部)						
I 利益剰余金期首残高		△ 68,466		△ 706, 752		△ 706, 752
Ⅱ 利益剰余金増加高						
1. 中間(当期) 純利益		272, 415		432, 792		642, 786
計		272, 415		432, 792		642, 786
Ⅱ 利益剰余金減少高						
1. 取締役賞与金		7, 500		4, 500		4, 500
計		7, 500		4, 500		4, 500
Ⅲ 利益剰余金中間期末(期末)残高		196, 449		△ 278, 459		△ 68,466

			(単位:千円)
	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間	前連結会計年度
科目	/ 自 平成17年4月 1日 、	/ 自 平成16年4月 1日 _\	/ 自 平成16年4月 1日 _\
14T F	至 平成17年9月30日	至 平成16年9月30日	至 平成17年3月31日
	金 額	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 税金等調整前中間(当期)純利益	192, 590	580, 961	958, 173
2. 減 価 償 却 費	32, 820	38, 971	77, 407
3. 減 損 損 失	16, 119	_	_
4. ゴルフ会員権評価損	_	_	8, 800
5. ゴルフ会員権売却損	_	17, 000	17, 000
6. 入 会 金 評 価 損	1, 700	_	_
7. 貸 倒 引 当 金 の 増 減 額	34, 830	△ 5,566	△ 61,084
8. 退職給付引当金の増加額	17, 855	47, 644	74, 693
9. 訴訟損失引当金の増加額	125, 200	_	_
10. 投資事業組合分配金	△ 3,441		-
11. 受取利息及び受取配当金	△ 2,894	△ 4, 540	△ 6,388
12. 支 払 利 息	46, 869	60, 205	114, 642
13. 投資有価証券売却益	_	A 001 710	\triangle 1, 210
14. 固 定 資 産 売 却 益 15. 固 定 資 産 除 売 却 損	0.000	△ 331, 712	△ 331, 712
15. 固 定 資 産 除 売 却 損 16. 売 上 債 権 の 増 加 額	2, 202	7, 584	9, 851 \triangle 79, 489
10. 元 工 復 権 の 増 滅 額 17. た な 卸 資 産 の 増 滅 額	△ 253, 533	△ 219, 686	
17. に な 即 員 座 の 瑁 滅 額 18. 仕 入 債 務 の 増 加 額	\triangle 22, 104 208, 068	\triangle 6, 317 107, 251	24, 126 28, 150
19. 未払消費税等の減少額	△ 15, 249	△ 13, 882	\triangle 3, 870
20. 役 員 賞 与 の 支 払 額	\triangle 7, 500	\triangle 13, 882 \triangle 4, 500	△ 4,500
20. は 気 気 う う 人 品 版 21. 持 分 法 に よ る 投 資 損 失	459	1, 206	872
22. その他の資産・負債の増減額	10, 863	△ 26, 321	△ 113, 918
小	384, 855	248, 300	711, 543
23. 利息及び配当金の受取額	2, 894	4, 540	6, 388
24. 利 息 の 支 払 額	△ 45, 902	△ 59,706	△ 112, 228
25. 供 託 金 の 支 出 額	_	△ 210,000	△ 210,000
26. 法 人 税 等 の 支 払 額	△ 176, 784	△ 15, 322	△ 21,027
営業活動によるキャッシュ・フロー	165, 063	△ 32, 186	374, 675
Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 有形固定資産の取得による支出	△ 7,830	△ 10, 477	△ 18,022
2. 有形固定資産の売却による収入	1, 643	1, 024, 694	1, 025, 027
3. 無形固定資産の取得による支出	A 4 107	△ 205	△ 205
4. 投資有価証券の取得による支出 5. 投資有価証券の売却による収入	△ 4, 137	△ 3, 335	△ 6, 617
┃ 5. 投資有価証券の売却による収入 ┃ 6. 子会社株式の精算による収入	10, 684	235, 482	237, 482
0. 丁云 任 休 氏 の 相 昇 に よ る 収 八 7. 貸 付 に よ る 支 出	 △ 6,800	50, 000 △ 8, 000	$50,000$ $\triangle 22,800$
8. 貸付金の回収による収入	13, 214	13, 155	25, 227
投資活動によるキャッシュ・フロー	6, 775	1, 301, 312	1, 290, 092
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー	,,,,,,	1,001,012	1, 200, 002
1. 短期借入れによる収入	401, 800	741, 800	1, 411, 800
2. 短期借入金の返済による支出	△ 675, 880	△ 732, 860	△ 1, 500, 220
3. 長期借入れによる収入	400, 000	850, 000	1, 000, 000
4. 長期借入金の返済による支出	△ 494, 010	△ 1, 178, 842	△ 1, 769, 934
5. 社債の償還による支出	△ 30,000	△ 30,000	△ 60,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 398, 090	△ 349, 902	△ 918, 354
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	5, 648	1, 157	△ 2,600
V 現金及び現金同等物の増減額	△ 220,603	920, 381	743, 813
VI 現金及び現金同等物の期首残高	1, 448, 189	704, 375	704, 375
Ⅷ 現金及び現金同等物の中間(期末)残高	1, 227, 585	1, 624, 756	1, 448, 189
	l .	l .	

(5)中間連結財務諸表作成の基本となる事項

- 1. 連結の範囲に関する事項
 - (1) 連結子会社の数 5社

連結子会社の名称

大東運輸倉庫㈱

㈱大東物流機工

ジェネラルインターナショナルフレイトフォワーダーズインコーポレイテッド 大東港運 (江陰) 儲運有限公司

㈱ダイトウサービス

(2) 非連結子会社名

相ダイトウ保険センター 東京運輸倉庫㈱

(連結の範囲から除いた理由)

総資産、売上高、中間純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等のいずれにおいても中間連結財務諸表に 重要な影響を及ぼしていないので連結の範囲から除外しております。

- 2. 持分法の適用に関する事項
 - (1) 持分法適用非連結子会社の数 1社

持分法適用非連結子会社の名称

東京運輸倉庫㈱

(持分法を適用していない非連結子会社)

3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社のうち下記2社の中間決算日は6月30日であります。中間連結財務諸表の作成にあたっては同日現在の中間財務諸表を使用し、中間連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

ジェネラルインターナショナルフレイトフォワーダーズインコーポレイテッド 大東港運(江陰) 儲運有限公司

- 4. 会計処理基準に関する事項
 - (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法
 - ① 有 価 証 券

その他の有価証券

時価のあるもの 中間連結決算末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部資本直入法により処理し 売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの 移動平均法による原価法

② デリバティブ取引により生ずる債権及び債務 時 価 法

③ たな卸資産

仕掛作業支出金 個別法による原価法

貯 蔵 品 最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産 主として定率法

ただし、親会社の大阪支店サントリー物流センター・東扇島倉庫B棟に

属する有形固定資産については定額法

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と

同一の基準によっております。

② 無形固定資産

施 設 利 用 権 親会社の港湾施設利用権については賃借期間(30年)に基づく定額法

その他の施設利用権については主として賃借期間に基づく定額法

ソフトウェア 社内における利用可能期間 (5年) に基づく定額法

③ 長期前払費用 定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の 債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に 基づき、当中間連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。

なお、会計基準変更時差異(1,022,835千円) については15年による按分額を費用処理しております。 数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の 年数(10年)による按分額をそれぞれ発生の翌連結会計年度より費用処理しております。

③ 訴訟損失引当金

係争中の訴訟に係る損失に備えるため、その経過等の状況に基づき合理的に見積もった損失負担 見積額を計上しております。

(4) 重要なリース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(5) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

(6) 中間連結キャシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

会計処理の変更

(固定資産の減損に係る会計基準)

当中間連結会計期間から「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」 (企業会計基準委員会 平成15年10月31日 企業会計基準適用指針第6号)を適用しております。

これにより税金等調整前中間純利益が16,119千円減少しております。

(6)連結財務諸表の注記事項

1. 連結貸借対照表関係

(当中間連結会計期間) (前中間連結会計期間) (前連結会計年度)

有形固定資産の減価償却累計額 896,397 千円 897,650 千円 901,058 千円

自 己 株 式 数 400株 400株

2. 連結損益計算書関係

※訴訟損失引当金繰入額の内訳

(1) 損害賠償請求見積額110,000 千円(2) 弁護士費用見積額15,200 千円計125,200 千円

3. リース取引

「EDINETによる開示を行うため記載を省略しております。」

4. セグメント情報

(1)事業の種類別セグメント情報

(単位:千円)

		当中間連結会計期間 (自 平成17年4月 1日) 至 平成17年9月30日)									
	港湾運送事業及 び港湾付帯事業	:::::									
I営業収益及び損益											
営 業 収 益											
(1) 外部顧客に対する営業収益	7, 117, 328	225, 841	7, 343, 170	_	7, 343, 170						
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	_	42, 321	42, 321	(42, 321)	_						
計	7, 117, 328	268, 163	7, 385, 491	(42, 321)	7, 343, 170						
営 業 費 用	6, 462, 042	234, 566	6, 696, 608	247, 867	6, 944, 476						
営業 利益	655, 286	33, 596	688, 883	(290, 188)	398, 694						

(単位:千円)

					(1 122 1 1 4/					
		前中間連結会計期間								
		(自 平成16年4月 1日)								
		至 平成16年9月30日 /								
	港湾運送事業及 び港湾付帯事業									
I営業収益及び損益										
営業収益										
(1) 外部顧客に対する営業収益	6, 610, 783	254, 014	6, 864, 798	_	6, 864, 798					
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	_	43, 599	43, 599	(43, 599)	_					
計	6, 610, 783	297, 614	6, 908, 397	(43, 599)	6, 864, 798					
営 業 費 用	5, 991, 234	255, 897	6, 247, 132	283, 244	6, 530, 376					
営業 利益	619, 548	41, 716	661, 265	(326, 843)	334, 421					

(単位:千円)

					(単位・1 口)					
		前連結会計年度 (自 平成16年4月 1日) 至 平成17年3月31日)								
	港湾運送事業及 び港湾付帯事業									
I 営業収益及び損益 営業収益										
【(1) 外部顧客に対する営業収益	13, 308, 557	506, 378	13, 814, 936	_	13, 814, 936					
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	_	86, 983	86, 983	(86, 983)	_					
計	13, 308, 557	593, 362	13, 901, 920	(86, 983)	13, 814, 936					
営 業 費 用	12, 082, 503	509, 368	12, 591, 871	516, 073	13, 107, 944					
営業 利益	1, 226, 054	83, 994	1, 310, 048	(603, 056)	706, 991					

(注) 1. 事業区分は、当企業集団における事業別収入区分によっております。

2. 各事業の主な業務

港湾運送事業及び港湾付帯事業 ・・・・・ 一般港湾運送事業・港湾荷役事業・倉庫業・通関業

一般貨物自動車運送事業

そ の 他 事 業 ・・・・・・ 海運代理店業・構内作業・港湾関連作業・外航利用運送事業等

(2)所在地別セグメント情報

当中間連結会計期間、前中間連結会計期間及び前連結会計年度における全セグメントの営業収益の合計に占める日本の割合が、いずれも90%を超えるため、その記載を省略しております。

(3)海 外 営 業 収 益

当中間連結会計期間、前中間連結会計期間及び前連結会計年度における海外営業収益は、連結営業収益の10%未満のため、その記載を省略しております。

5. 有価証券

(当中間連結会計期間末 平成17年9月30日)

1. その他有価証券で時価のあるもの

区 分	取得原価(千円)	中間連結貸借対照表計上額 (千円)	差額(千円)	
その他有価証券 株 式	94, 973	211, 894	116, 921	

- (注) 表中の「取得原価」は、減損処理後の帳簿価額であります。
- 2. 時価評価されていない主な有価証券

内容	中間連結貸借対照表計上額(千円)
(1) 関係会社株式 関連会社株式	25, 298
(2) そ の 他 有 価 証 券 非上場株式(店頭売買株式を除く)	78, 178

(前中間連結会計期間末 平成16年9月30日)

1. その他有価証券で時価のあるもの

区 分	取得原価(千円) 中間連結貸借対照表計上額 (千円)		差額(千円)	
その他有価証券 株式	87, 554	118, 515	30, 960	

- (注) 表中の「取得原価」は、減損処理後の帳簿価額であります。
- 2. 時価評価されていない主な有価証券

内容	中間連結貸借対照表計上額(千円)
(1) 関係会社株式 関連会社株式	25, 423
(2) そ の 他 有 価 証 券 非上場株式(店頭売買株式を除く)	76, 253

(前連結会計年度末 平成17年3月31日)

1. その他有価証券で時価のあるもの

		当連結会計年度 (平成17年3月31日)			
区分	取得原価(千円)	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (千円)	差額(千円)		
その他有価証券 株式	90, 835	148, 427	57, 591		

(注) 表中の「取得原価」は、減損処理後の帳簿価額であります。

2. 時価評価されていない主な有価証券

内容	連結貸借対照表計上額(千円)
(1) 関係会社株式 関連会社株式	25, 757
(2) そ の 他 有 価 証 券 非上場株式(店頭売買株式を除く)	85, 609

6. デリバティブ取引

「EDINETによる開示を行うため記載を省略しております。」

5. 生産、受注及び販売の状況

<u>(1)連結部門別売上高</u>

_										•	-1 77 • 1 1 1 1 /
期 別					期別	当中間連結会 (自 平成17年/ 至 平成17年	4月 1日、	前中間連結会 (自 平成16年4 至 平成16年9	4月 1日、	増	減
区 分						金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	増減比
							%		%		%
港湾	運送事	事業及	び港	湾付帮	事業	7, 117, 328	96. 9	6, 610, 783	96. 3	506, 544	7. 7
港	湾	運	送	部	門	3, 475, 628	47. 3	3, 168, 313	46. 2	307, 314	9. 7
陸	上	運	送	寤	門	1, 237, 503	16. 8	1, 164, 063	17. 0	73, 440	6.3
倉		庫	3	邹	門	1, 511, 737	20. 6	1, 457, 885	21. 2	53, 851	3. 7
通		関	7	邹	門	892, 459	12. 2	820, 520	11. 9	71, 938	8.8
そ	の	f	也	事	業						
そ	の	f	也	部	門	225, 841	3. 1	254, 014	3. 7	△ 28, 173	△11.1
合					計	7, 343, 170	100. 0	6, 864, 798	100. 0	478, 371	7.0

⁽注) 当企業集団はすべての顧客からの直接受注による営業活動を行っております。